



# 末吉小だより

横浜市立末吉小学校  
学校だより

令和5年 **5月号**

～ 150th Anniversary ～

## 茶摘みの歌と食育

学校長 高山 和宣

「夏も近づく八十八夜 野にも山にも若葉が茂る・・・」の茶摘みの歌を知っている児童も以前より減ってきている気がします。八十八夜というのは、立春から数えて八十八日目の農作業の節目とされた日で、昔はこの日が茶摘みやお米の種まきの目安とされていました。5月2日がこの日にあたります。

お米という漢字を分解すると八十八という数になります。稲が実るまでの八十八回もの手間をかけているという意味も含まれているようです。

当たり前のように店頭並び手軽に購入できるお米も、種からお米になるまでには、数多くの手間がかかっています。苗作り、田植え、水やり、稲刈り、乾燥、脱穀、精米などたくさんのお手間暇がかかっているのです。それだけではなく、できたお米をパッケージにしたり、お店まで運んだりする必要があります。お店に並んでからも、食べるまでには、さらに手間をかけなければいけません。安全で安心しておいしく食べられるように衛生やアレルギーなども考えながら、丁寧に調理をしなければなりません。

また、それらを食べるということは、お米を含め、ほとんどの食物には元々は生命があって、私たちはその命を毎日いただいているという側面もあります。

さらに、「食」の考えを広げて眺めてみると、気象変動と作物の関係のこと、貧困の問題、或いはフェアトレードのこと、流通のこと、地域の特産物と気候の関係のこと、宗教のこと、魚の減少問題などなど多くのこととつながっており、知ったり考えたりすることはたくさんあります。

給食は年間で188日あります。末吉小学校ではその給食の時間も大切な学習の時間と捉え、子どもたちと一緒に食について考えていけたらいいなと思っております。

コロナウイルス感染症の規制も少し緩和され、子どもたちは給食をおいしそうに食べていますが、この給食の機会を使って考えを広げていけるとよいです。

命をいただいている事への感謝、食品を扱うお店や工場の人、さらに給食を作ってくくださる栄養教諭や調理員さん、また、各家庭で食事を作ってくくださるお家の方への感謝の気持ちも大切にしていきたいです。

学校の電話は、平日の夜間および早朝（17:30～7:45）、土、日、国民の祝日、長期休業期間等にはメッセージ対応としております。ご理解ご協力をお願いいたします。

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/sueyoshi/>